山と花のたより　192号

２０１６年８月１５日　　松尾忠

メールアドレス　tadashi6414@smile.ocn.ne.jp

ＨＰ http://yama-to-hana-no-tayori.sakuraweb.com/

髙倉晴子さん（８３才）が北岳登頂

↑イワウメ

７月中旬、健生会友の会有志による「『いつでも元気』読者のみなさんと登る・北岳ゆっくり登山」が行われた。参加者は男性４、女性８の１２名、平均年齢７１歳の高齢者登山。

１３日 23:03 発夜行バスで京都を発ち、１４日 6:10 山梨県韮崎駅前着。予約していたタクシーで7:50登山口の広河原に。今日の目的地は標高２３００の白根御池小屋。花と景観を楽しみつつ、ゆっくりと大樺沢を登り、二股で昼食を摂って、13:00小屋に到着。翌日の北岳ピストンに備えて早めに就寝。

夜中に目が覚めた。３時ちょうど。屋根を叩く雨の音。玄関を開けて外に出てみる。大した雨ではない、朝までに止むだろう。4:30 起床、５時朝食。まだ雨が降っている。仲間の幾人かが不安そうな顔で外を見ている。

↑カワラナデシコ

朝食後緊急のミーティング。小屋スタッフの「今日は降ったり、やんだりでしょう」の言を伝え、選択肢をあげて意見を求めた。「登頂したい」に手を挙げたのは女性では２人。８３才の髙倉さんも手を挙げている。その気概に内心感嘆。よし！　肚は決まった。

昨日から高度障害の症状を呈している人、足を痛めた人を含めて女性６人が残留。この小屋に連泊するので、こうした選択ができるのだ。

登頂組は 6:25 草すべりコースの急登へと歩き始める。ニリンソウ、サンリンソウ、ハクサンフウロ、グンナイフウロ、シモツケソウ、マルバダケブキなど花を確かめつつ、ゆっくりと登る。やがてお花畑に。丁度陽が射しはじめ、一面の花々を浮き立たせてくれる。シナノキンバイ、ミヤマダイコンソウ、ハクサンチドリ、テガタチドリ、キバナノコマノツメ、イブキトラノオ、オヤマノエンドウ、ハクサンイチゲと百花繚乱。だがいつもに比べて「すごい！」の感じにやや欠けている。

↓シナノキンバイ

まもなく小太郎尾根に。毎回ここで見上げる千丈ケ岳、甲斐駒の雄姿は見えない。だが足元には風衝地帯特有のお花畑が広がって疲れを癒してくれる。

9:30 肩の小屋着。予定より１時間以上早い。休憩の後

10：40 ついに北岳山頂着。富士も間の岳も見えないが、女性２人が手を握り合って互いを讃え合っている。記念写真に納まる髙倉さんの笑顔が眩しい。確信してはいたが、こうして北岳山頂に一緒に立ってみると、改めてこの人のすごさを実感するのだ。私自身あと８年生き

たとしても、果たして北岳に登れるだろうか。登ろうと思うだろうか。

もう３０年近く、一緒に山歩きを続けて来た「人生の大先輩」の晴れやかな笑顔を見ながら、私自身満ち足りた気持ちを噛みしめていた。

好感度抜群の白山温泉と大村美術館

１６日下山し、韮崎市の白山温泉で汗を流し、隣接する「上小路・そば処」でお腹を満たして、これまたお隣の韮崎大村美術館に入った。美術館では女流画家たちの作品展が催されており、三岸節子や片岡球子らの名品が展示されていた。この三つの施設はノーベル賞受賞の大村智博士が私費を投じて造られたもので、いずれも感じのよい素敵なところであった。

続・二上山に咲く花々　８

ガンピ（雁皮）　ジンチョウゲ科ガンピ属　　（写真は友の会山歩きクラブの澤木仁さん）

和紙の優美さ、強さは世界中でつとに有名。各国で美術品の保存・修復にも使われており、国内では古代以来、学問・文化・芸術を支えただけでなく、生活用品に広く活かされて来ました。その和紙の原料の一つがガンピで、二上山の尾根筋に５月ごろ淡黄色の小さい花を咲かせます。この可愛らしい花の集まりを目にし始めると、春は終わりに近づきます。

ガンピは日本の固有種。

続・二上山に咲く花々　９　　コガンピ（小雁皮）　　写真は澤木仁さん

ジンチョウゲ科ガンピ属

８月ごろ、二上山頂上部遊歩道の各所で白い花の塊を見せてくれます。ガンピと違って和紙の原料にはならないので「イヌガンピ」とも呼ばれます。人間の役に立たないからと「イヌ〇〇〇」のネーミングは、植物に対しても犬に対しても失礼ですよね。

「**人間中心思想**がなせる哀しき所業」と言ったら、叱られるでしょうか。